



講演のご案内

お申込み不要・参加費なし・途中入退室自由・質疑応答可です。お気軽にお越しください。

日時：6月22日（土）午後2時～5時 ※総会（1時～2時を予定）後

場所：カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）内 ヨセフホール

対談 「隔絶から和解へ」

内容紹介： 被害者、加害者家族、加害者のそれぞれの視点から見えること、そして互いの関わりについて、対談します。当日は韓国からの飛び入りゲストも参加予定です。

片山 徒有 × **阿部 恭子** × **五十嵐 弘志**
(あひる一会代表) (World Open Heart 理事長) (マザーハウス理事長)

☆片山 徒有 (カタヤマ タダアリ)☆

あひる一会（あひるのいちえ）代表、被害者と司法を考える会代表。

1997年、当時8歳だった息子、隼（しゅん）をひき逃げ事故で亡くす。

この事故の20日後に、一旦、加害者が不起訴処分となった。再捜査を求める24万人の賛同署名を受けて捜査が行われた結果、加害者は起訴され、有罪判決を受けた。

その後、被害者支援を行う一方、法務省で行っている「被害者の視点を取り入れた教育」で、全国の少年院、刑務所にて講話や指導を担当している。最近では立ち直りプログラムに関心を持ち、国内外の少年院や刑務所でのスポーツプログラムの調査研究を行った。



☆阿部 恭子 (アベ キョウコ)☆

NPO法人World Open Heart 理事長。東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了（法学修士）。

2008年大学院在学中、日本で初めて犯罪加害者家族を対象とした支援組織を設立。全国の加害者家族の相談に対応しながら、講演活動や執筆活動を行う。

著書は、『家族という呪い—加害者と暮らし続けるということ—』（幻冬舎新書、2019）、『息子が人を殺しました—加害者家族の真実—』（幻冬舎新書、2017）、『性犯罪加害者家族のケアと人権—尊厳の回復と個人の幸福を目指して—』（編著、現代人文社、2017）、『交通事故加害者家族の現状と支援—過失犯の家族へのアプローチ—』（現代人文社、2016）、『加害者家族支援の理論と実践—家族の回復と加害者の更生に向けて—』（編著、現代人文社、2015）。



☆五十嵐 弘志 (イガラシ ヒロシ)☆

前科3犯、受刑歴のべ約20年。獄中で主イエス・キリストと出会い、回心する。「神の愛の宣教者会」の修道女との交流をきっかけに、マザー・テレサを信仰の母とする。

出所後、真の愛と赦しを実践するため、「民間非営利団体マザーハウス」を設立。以後、受刑者や出所者のケアとともに、イエス・キリストの愛を伝えている。2014年5月に、マザーハウスをNPO法人として正式に立ち上げ、現在、全国の受刑者700名以上と文通（ラブレター・プロジェクト）、出所者50名以上をサポートしながら、当事者の更生・社会復帰支援を行う。



☆VIPプリズムスタッフ及び協力者☆

会長 五十嵐 弘志（特定非営利活動法人マザーハウス理事長）
副会長 原田 昇（株式会社ライフテック）
顧問 宿谷 晃弘（東京学芸大学准教授）、佐々木 満男（国際弁護士）、
新倉 修（青山学院大学教授）、細井 洋子（東洋大学名誉教授）

☆お問合せ☆

電話 03-6659-5260 メール infovipprism@motherhouse-jp.org (QRコードはこちら↑)

